



野菜の需給・価格動向レポート(平成25年11月5日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		10月の価格情報				生育及び価格の１１月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額				
			上旬	中旬	下旬		
葉 茎 菜	 キャベツ	74.19	79	78	96	・入荷見込量：13,440（96） ・主産地：千葉（43）、愛知（23）、茨城（17）、東京（4）	・千葉産は、台風の影響も少なく小ぶり傾向であるものの順調な出荷で、今後も平年並みの出荷の見込み。愛知産は、夏の高湿、少雨のため出荷の開始が遅れ、少なめの出荷となっており、今後も小玉傾向で引き続き少なめに推移する見込み。茨城産は、台風の影響で収穫の遅れはあるものの、今後は徐々に平年並みの出荷になる見込み。 ・愛知産が少なめと見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
		88.91	82	85	109	・入荷見込量：3,500t（96） ・主産地：愛知（62）、茨城（15）、大阪（7）	
	 ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	218.22	240	234	269	・入荷見込数量：5,640t（97） ・主産地：青森（15）、茨城（14）、新潟（11）、秋田（10）、千葉（7）、群馬（7）、埼玉（7）、栃木（5）、輸入（4）	・青森産は、9月の長雨と台風の降雨の影響で、病害等がみられ、今後も少なめの出荷の見込み。出荷の終盤期を迎え、今後、徐々に出荷量が減少する見込み。茨城産は、台風の影響から曲りや折れがあるものの、平年並みの出荷で、今後も平年並みの出荷の見込み。
		444.77	594	561	535	・入荷見込数量：180t（86） ・主産地：香川（18）、徳島（16）、大阪（13）、奈良（13）、三重（12）、高知（10）	・青森産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	 はくさい	54.1	78	50	71	・入荷見込量：12,820t（98） ・主産地：茨城（88）	・茨城産は、台風の影響で一部の産地で倒伏がみられるとともに、10月の気温高の影響で巻きがゆるく、小玉傾向となっている。今後は、中旬の出荷のピークに向けて、出荷量が増加するものの、平年より少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		69.44	71	45	77	・入荷見込量4,500t（95） ・主産地：茨城（44）、熊本（16）、大分（15）、長野（11）、岡山（6）	
	 ほうれんそう	350.1	573	482	596	・入荷見込量：1,570t（98） ・主産地：群馬（41）、茨城（15）、千葉（13）、埼玉（10）	・群馬産は、台風26号の影響で収穫作業などに遅れがみられ、少なめの出荷になっており、今後も、少なめの出荷の見込み。埼玉産は、9月の台風18号の影響で一部蒔き直しをした産地があるものの、今後は生育が回復し平年並みの出荷の見込み。千葉産は、台風等の影響により少なめの出荷量となっているものの、中旬から出荷量が増加する見込み。
		419.76	651	502	632	・入荷見込量：650t（115） ・主産地：岐阜（32）、福岡（27）、徳島（25）、群馬（7）	・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	 レタス (結球)	158.27	132	133	153	・入荷見込量：5,830t（92） ・主産地：茨城（69）、兵庫（10）、香川（4）	・茨城産は、台風26号の影響で、外葉等に傷み等が発生し、小玉傾向で少なめの出荷となっており、今後も、少なめの出荷の見込み。兵庫産は、夏の高湿少雨の影響で定植が遅れたことと、9月の曇雨天により少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷量の見込み。
		152.57	145	147	178	・入荷見込量：1,400t（129） ・主産地：兵庫（43）、茨城（26）、徳島（17）、香川（11）	・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
	 たまねぎ	76.15	102	100	102	・入荷見込量：10,310t（94） ・主産地：北海道（88）、輸入（9）	・北海道産は、収穫は終了し、今後は市況を見ながら計画的な出荷となるが、生育期の少雨等の影響で全体的に小玉傾向で、平年を下回る出荷となる見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.15	107	106	113	・入荷見込量：3,400t（77） ・主産地：北海道（82）、兵庫（17）	
果 菜	 きゅうり	262.75	265	247	459	・入荷見込量：4,650t（97） ・主産地：埼玉（32）、宮崎（21）、群馬（17）、千葉（11）、茨城（7）、高知（6）	・埼玉産は、最近の低温と曇雨天の影響で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。宮崎産は、台風の影響も少なく順調な出荷で、今後も平年並みの出荷の見込み。群馬産は、日照不足の影響から少なめの出荷となっている。今後は、出荷の終盤となり減少傾向で、中旬までの出荷の見込み。
		284.72	272	242	443	・入荷見込量：890t（95） ・主産地：宮崎（51）、高知（17）、大阪（9）	・埼玉産及び群馬産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	 トマト (大玉)	315.83	503	309	384	・入荷見込量：4,770t（100） ・主産地：熊本（37）、愛知（19）、千葉（14）、茨城（7）、静岡（4）	・熊本産は、夏場の高温と長雨の影響で着果数が少なく、少なめの出荷となっており、今後は出荷量の増加が見込まれるが、平年には届かない見込み。愛知産は、順調な出荷の見込み。千葉産は、気温の低下で着色が遅いため、平年より少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。
		337.88	548	371	369	・入荷見込量：960t（110） ・主産地：熊本（47）、愛知（10）、岐阜（7）、徳島（7）、福岡（6）	・熊本産及び千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	 なす	301	271	242	381	・入荷見込量：2,310t（97） ・主産地：高知（56）、福岡（16）、栃木（9）、群馬（3）	・高知産は、低温の影響で少なめの出荷となっているものの、今後は、天候の回復により出荷量の増加が見込まれる。福岡産は、夏の高湿と豪雨の影響等で樹勢が弱く着果数が少ないため、平年より少なめの出荷となっており、今後も平年より少なめの出荷の見込み。
		263.21	259	225	331	・入荷見込量：470t（100） ・主産地：高知（38）、熊本（21）、福岡（15）、岡山（10）	・福岡産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	 ピーマン	263.58	379	365	326	・入荷見込量：1,920(100) ・主産地：茨城（61）、宮崎（19）、高知（9）	・茨城産は、台風26号の影響は見られないものの、最近の曇雨天の影響で生育が遅れ少なめの出荷となっているものの、今後は、出荷量が増加する見込み。宮崎産は、夏の高湿の影響による花落ちと最近の曇雨天の影響で少なめの出荷量となり、今後も少なめの出荷の見込み。
		282.16	356	329	341	・入荷見込量：360t（95） ・主産地：宮崎（58）、高知（21）、鹿児島（10）	・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
根 菜	 だいこん	64.33	107	84	105	・入荷見込量：12,750t（99） ・主産地：千葉（66）、神奈川（17）	・千葉産は、順調な生育で平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、台風の影響で多少の塩害の被害があるものの、ほぼ平年並みの出荷となっており、今後は、出荷量が増加する見込み。
		76.48	114	95	119	・入荷見込量：3,500t（105） ・主産地：長崎（20）、和歌山（14）、鹿児島（12）、徳島（10）、北海道（8）、石川（8）、千葉（7）、熊本（7）	・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
	 にんじん	123.08	123	112	117	・入荷見込量：7,610t（98） ・主産地：千葉（41）、北海道（39）、輸入（2）	・北海道産は、出荷終盤期を迎え、中旬までの出荷の見込み。千葉産は、夏場の高温と生育時の少雨の影響、及び台風等の影響で生育遅れ等がみられ、平年より少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。
		123.11	126	112	121	・入荷見込量：2,500t（90） ・主産地：北海道（52）、長崎（40）、鳥取（8）	・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、今後平年を上回って推移する見込み。

種類		10月の価格情報				生育及び価格の１１月の見通し
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			
			上旬	中旬	下旬	
いも	さといも	200.88	251	224	239	・入荷見込量：1,340t (99) ・主産地：埼玉 (54)、千葉 (15)、栃木 (4)、輸入 (4) ・埼玉産は、順調な生育で、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏場の高温少雨の影響と台風による茎折れが生じたため、肥大が進まず小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も少なめの見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		207.2	237	261	295	
	ばれいしょ	88.17	115	104	97	・北海道産は、収穫がほぼ終了。地域により作柄に違いはあるが、全体では最も出荷の多い十勝が良かったことから、平年並み若しくは平年を上回る見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
			88.17	107	97	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは、前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、9月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,577gで前年比93%、購入金額は、1,863円で同109%となり、購入数量は前年をかなり下回り、購入金額はかなり上回った。

また、小売物価統計によると、10月のキャベツの小売価格は、169円で過去5か年平均比113%、レタスは、405円で同87%となり、キャベツは過去5か年平均をかなり上回り、レタスはかなり下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5か年平均		平成24年		平成25年			
	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	前年比	購入金額 (円)	前年比
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101
7月	4,421	1,691	4,386	1,675	4,456	102	1,783	106
8月	4,318	1,689	4,245	1,618	4,422	104	1,741	108
9月	4,839	1,783	4,916	1,703	4,577	93	1,863	109
10月	5,280	1,840	5,242	1,761		0		0
11月	5,030	1,630	5,039	1,602		0		0
12月	5,140	1,837	5,169	1,888		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

主要野菜の小売価格（東京都区部）
(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成25年	5か年比 (%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比 (%)
1月	187	203	109	579	904	156
2月	203	204	100	555	722	130
3月	207	181	88	512	434	85
4月	248	207	83	466	426	91
5月	175	133	76	369	318	86
6月	140	137	98	338	274	81
7月	149	173	116	308	385	125
8月	138	140	101	414	371	90
9月	142	160	113	526	461	88
10月	150	169	113	467	405	87
11月	155		0	385		0
12月	148		0	495		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5か年平均は、平成20～24年の平均。
2 平成25年10月の値は、10月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

9月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年比113%の6万2千トン、加工野菜は、同100%の13万8千トン、野菜全体は、同104%の20万トン、うち中国は同106%の11万2千トンとなった。生鮮野菜は、前年をかなり上回り、加工野菜は前年並み、野菜全体はやや上回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成23年		平成24年		平成25年1～9月		平成25年9月	
		前年比		前年比		前年同月比		前年同月比
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	618,094	83	62,406	113
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	1,377,752	98	137,961	100
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	1,995,847	93	200,367	104
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	1,008,435	93	111,747	106
中国産シェア	52		51		51		56	

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

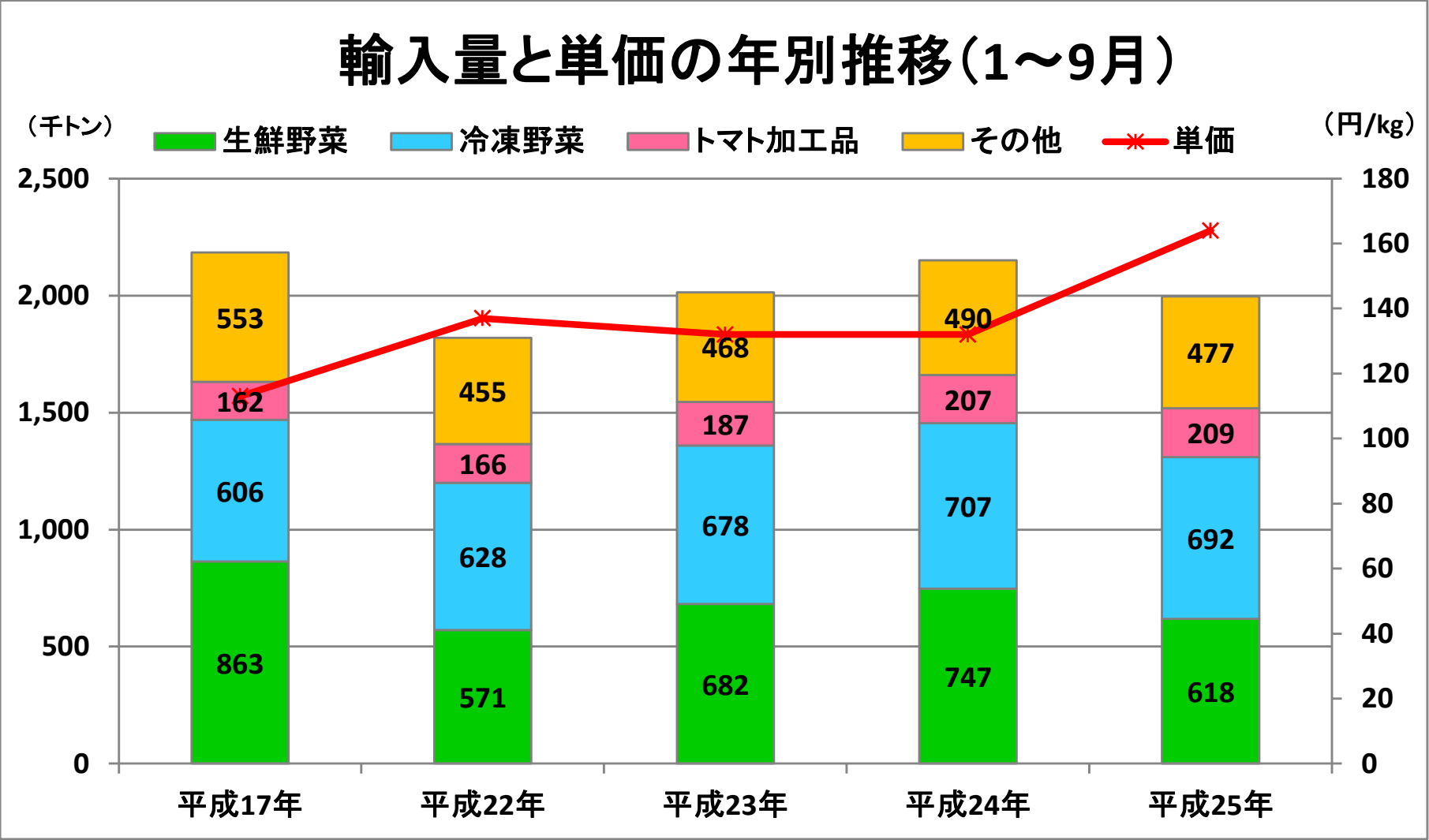
品目	輸入先	平成24年9月(A)	平成25年9月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	23,082	28,534	124
	中国	21,423	26,132	122
	アメリカ	1,659	2,401	145
にんじん	合計	5,635	6,479	115
	中国	5,572	6,185	111
	ニュージーランド	633	205	32
ねぎ	合計	3,848	4,791	125
	中国	3,846	4,789	125

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成25年9月は、速報値。

4 トピック ― 平成25年1～9月の輸入動向 ―

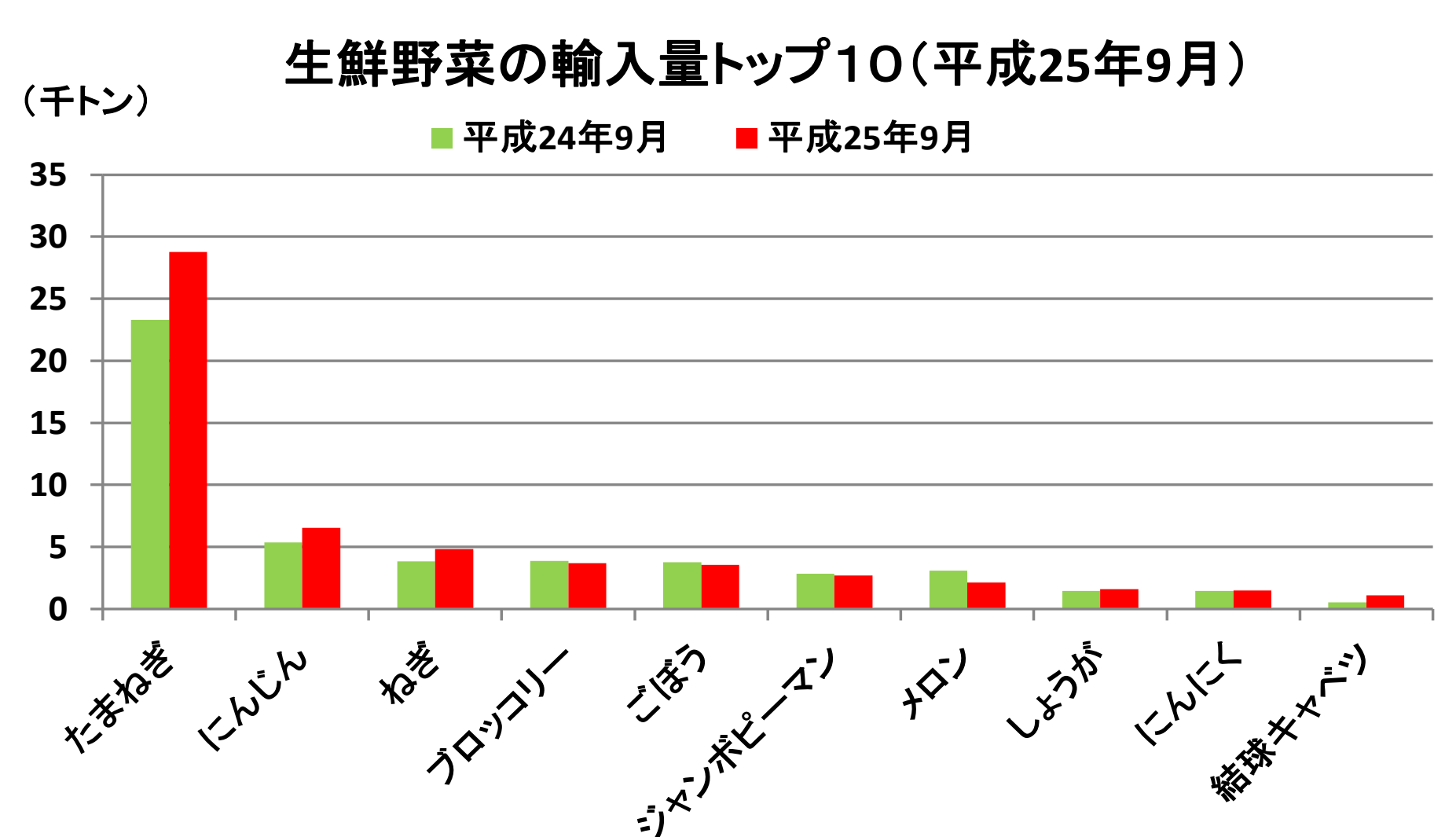
平成25年1～9月の野菜全体の輸入量は、前年同期比93%の200万トンとなった。
このうち、9月の野菜全体の輸入量は、前年同月比104%の20万トンと月間輸入量が10か月ぶりに増加し、9月単月としては、過去最大の輸入量を記録した平成17年に次ぐ輸入量となった。これを類別で見ると、トマト加工品、その他調製野菜等が減少する中で、生鮮野菜が同113%、冷凍野菜が同105%と増加しており、生鮮野菜の増加が目立つ。
生鮮野菜の月間輸入量が対前年同月を上回ったのは、13か月ぶりであり、特に生鮮野菜の輸入量の上位を占めるたまねぎが同123%、にんじんが同122%、ねぎが同127%と大幅に増加している。
たまねぎは、1～4月は前年に収穫された北海道産が、5～8月は佐賀産等が供給の主力となるが、ともに豊作であったこと、及び中国産の輸入単価が高かったこと等から、1～8月の輸入量が前年を下回っていた。しかしながら、9月以降の主力産地の北海道産が生育時の少雨の影響を受けて、小玉傾向で少なめの出荷と見込まれている影響により、輸入量が増加しているとみられる。
今後のたまねぎの輸入量は、北海道産の供給が少なめと見込まれることから、前年を上回って推移する可能性があり、今後の注視が必要である。

輸入量と単価の年別推移(1～9月)



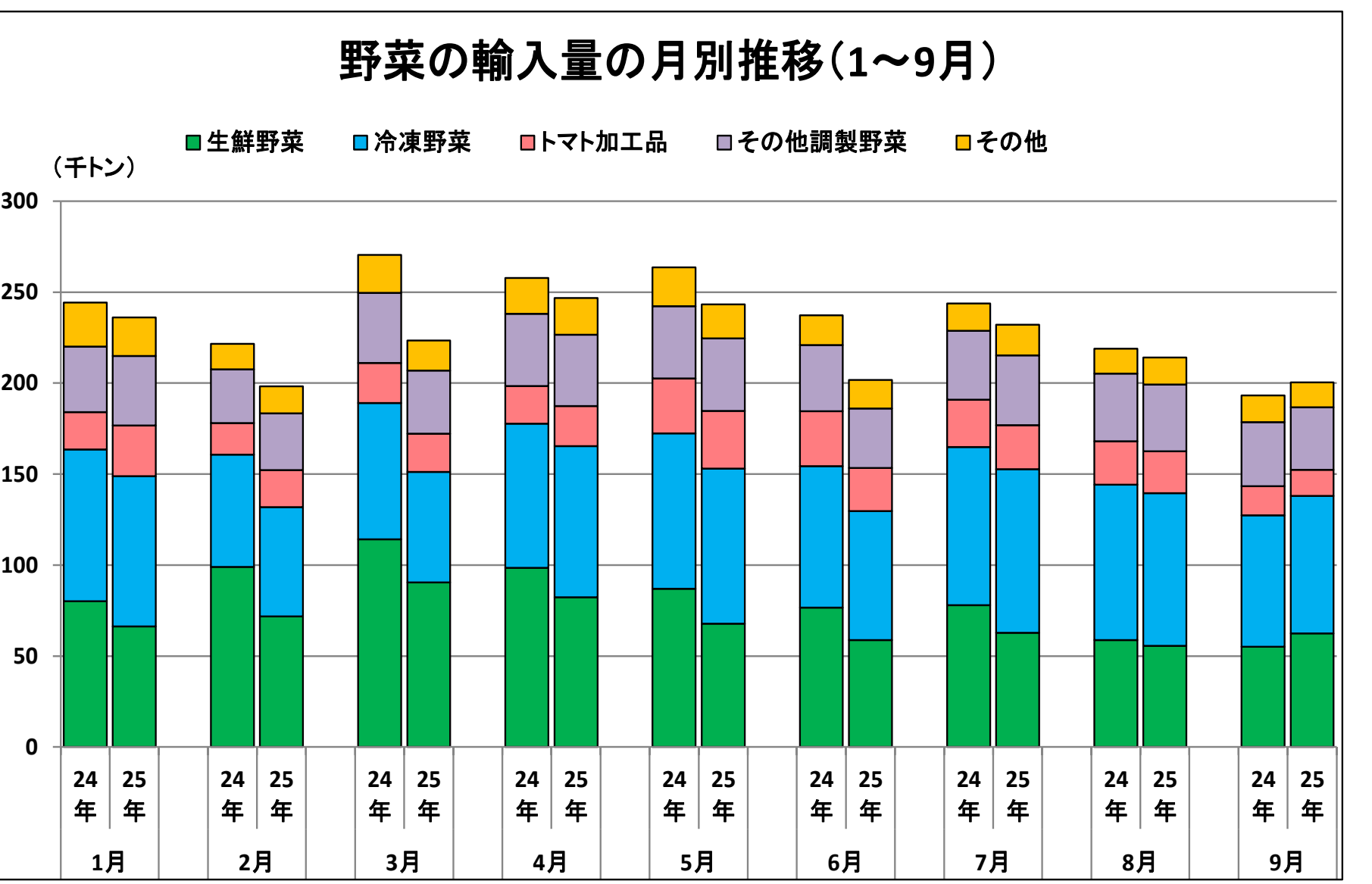
資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」
注：平成17年は、年間輸入量が最大の年

生鮮野菜の輸入量トップ10(平成25年9月)



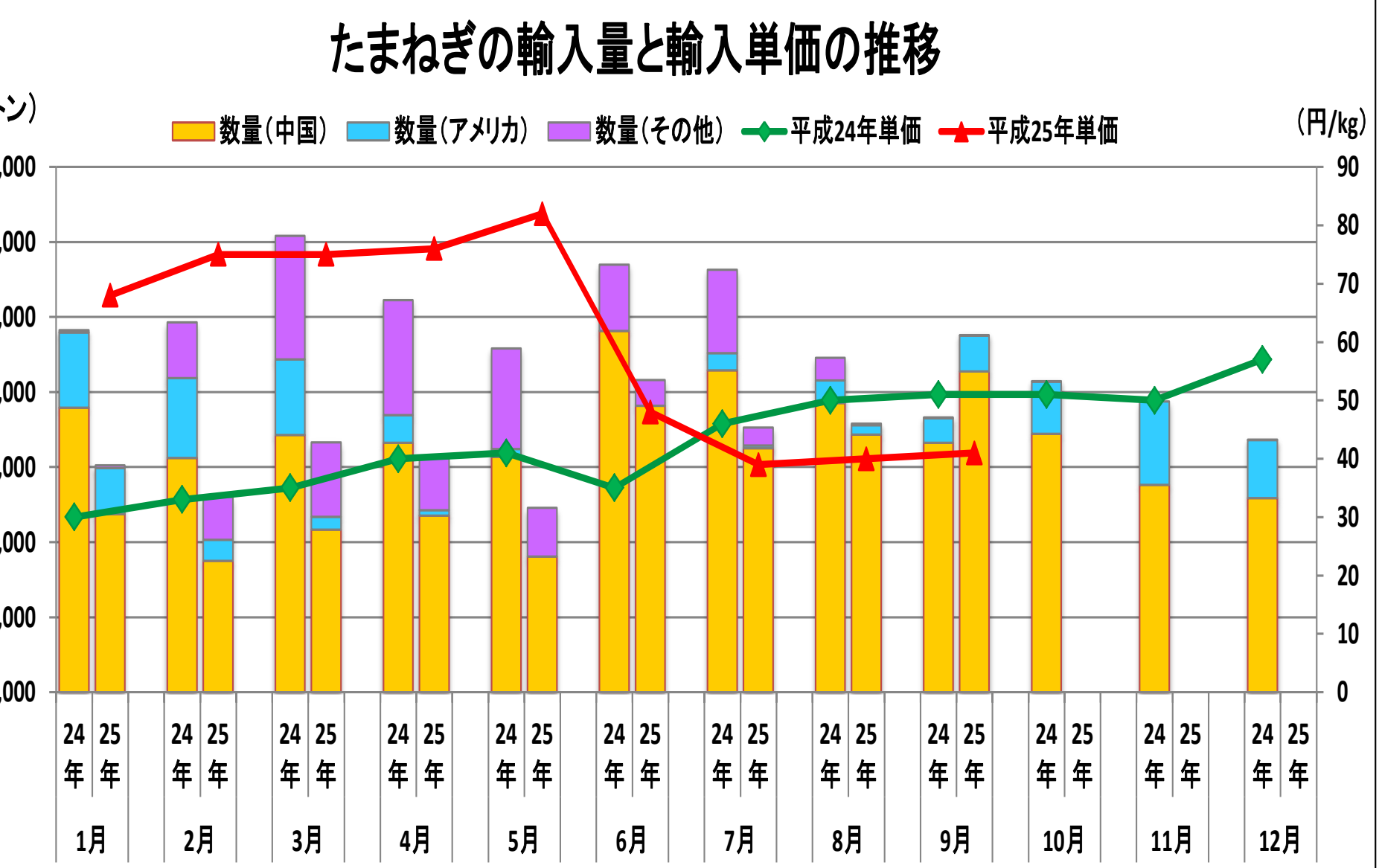
資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

野菜の輸入量の月別推移(1～9月)



資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

たまねぎの輸入量と輸入単価の推移



資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」